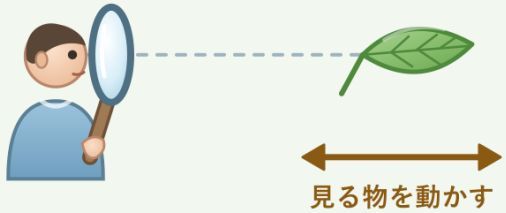
虫めがねの使い方と観察の記録

小さな生き物を大きく見て、ほかの生き物と比べられるように記録するには、どうすればよいだろう

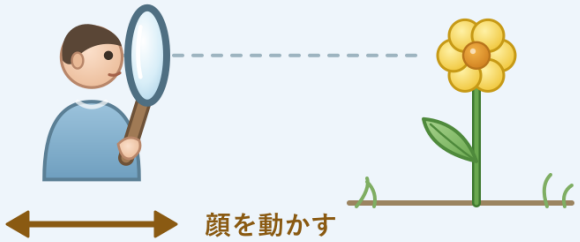
1 虫めがねの使い方

手に持てる物を見るとき



虫めがねを
目に近づけて持つ。
見る物を前後に動かし、
はっきり見える所で
止める。

動かせない物を見るとき



虫めがねを目に
近づけたまま、
顔を前後に動かし、
はっきり見える所で
止める。

2 観察の記録（記録カードの見本）

ナナホシテントウ

1. 5月12日　晴れ
2. 場所：校庭の花だん（葉の上）
3. スケッチ



4. 大きさ：約7mm
   （ものさしで、はかった）
5. 色：赤に、黒い点が7つ
   形：丸く、せなかがもり上がる
6. 気づいたこと：さわると、
   足をちぢめて動かなくなった

なぜ書くの？

1. **日付・天気**
   いつ見たかが分かり、比べられる
2. **場所**
   どこにいたか（すみか）が分かる
3. **スケッチ**
   見たとおりに、大きくかく
4. **大きさ**
   ほかの生き物と、数で比べられる
5. **色・形**
   ちがう所・同じ所の手がかりになる
6. **気づいたこと**
   ふしぎに思ったことを、次に調べる



安全のために

虫めがねで太陽を見ない（目をいためる）。集めた日光を、生き物や人、服に当てない。
落とさないように持つ（われると、けがをする）。

※ 模式図。完全な操作手順ではない。授業での手順は先生の指示で確かめる。記録カードの書き方は一例。